

2006年8月10日

2006年度 大学英語教育学会（JACET）関西支部 講演会開催のお知らせ

関西支部支部長 木村博是
大学英語教育学会関西支部事務局
〒522-8533 彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学 小栗裕子研究室内
E-mail: yoguri@ice.usp.ac.jp

残暑の候、会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。

さて、今年度の講演会を下記の要領で開催したく存じます。奮ってご参加いただきますようご案内いたします。

記

日時： 2006年10月28日（土曜日） 15時30分～17時00分（受付は15時00分から）

場所： 「ば・る・るプラザ京都」6階会議室6 tel.075-353-7444
〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 6 7 6-1 3
(JR 京都駅北側出口 東隣、徒歩1分)
<http://www.mielparque.or.jp/kyt/kyt01.html>

講師： 山田雄一郎氏（広島修道大学）

演題： 英語力をどう育てるか—学校教育の守備範囲

司会： 木村博是氏（近畿大学）

資料代： 会員 無料、非会員 500円

事前申込不要。直接会場にお越しください。

お車での来場は、ご遠慮ください。



講演会終了後、懇親会を予定しております。

場所： がんこ寿司（京都駅前）tel.075-342-5995 <http://r.gnavi.co.jp/k026617/>
〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下ル東塩小路町 901 京都駅ビル
JR 京都駅 徒歩3分 「京都駅ビル東ゾーン2階・京都劇場となり」

会費： 4,500円

申し込み：10月20日（金）までに、担当幹事の 小栗裕子（yoguri@ice.usp.ac.jp）までご連絡ください。なお、会費は当日徴収いたします。

講演骨子

1. 先ず取り上げたいことは、日本語能力と英語能力の関係です。「英語が使える日本人」になるということとは「日本語と英語とのバイリンガル」になるということですから、二つの能力の関係はどうしても明らかにしておく必要があります。
2. その際、われわれは、母語である日本語の能力をどのようにして手に入れているのかというのが次に取り上げたい問題です。母語は訓練しなくても育つのか、あるいは特別な訓練をしなければ育たない部分があるのか。書き言葉は、母語の発達にどんな影響を与えるのか。同じことが、第二の言語である英語についても言えるのかといった点も考えたいと思います。
3. 英語は日本の社会で用いられる言語ではありません。その不要不急の言語である英語を話すということは、一般の日本人にとってどの程度可能なことなのでしょう。また、「英語が使える日本人」構想が目指すのは、どんな日本人、つまりどんな英語をどの程度使える日本人を育成しようとしているのでしょうか。そして、それは何のためなのでしょう。
4. 「英語が使える日本人」の育成に関して、学校教育はどのような貢献ができるのでしょうか？言い換えると、この点に関して学校教育はどこまで責任があるのでしょうか。小学校は、中学校は、高等学校は、そして大学は、それぞれどんなことをなすべきなのでしょう。
5. 言語は、習ったからといって身につくものではありません。その観点に立てば、非英語社会である日本では、どのような訓練をしようとも大量の英語学習失敗者が生まれると覚悟しておかなくてはなりません。われわれの社会は、そのような失敗者をどう扱おうとしているのでしょうか。

講師プロフィール

広島県生まれ。1973年に広島大学大学院修士課程（英語教育）を卒業。1988年4月より広島修道大学に勤務。英語教育を政策的な視点から位置づけることに関心があるが、それ以外に外来語や広告の言語にも興味を持っている。主な著作としては、『言語政策としての英語教育』（溪水社、2003）、『英語教育はなぜ間違っているのか』（ちくま新書、2005）、『日本の英語教育』（岩波新書、2005）、『外来語の社会学—隠語化するコミュニケーション』（春風社、2005）、『英語力とは何か』（大修館書店、2006）などがある。